



高野山 真言宗 法真寺だより

第2号

【発行所】高野山 真言宗 法真寺
大阪府阿倍野区阪南町三十一番四十七
電話 〇六（七五〇九）三八〇六
発行人 法真寺 第三代 住職 法源



時至り人叶いて、道、
無窮に被らしむ。



弘法大師（空海）
774～835年

人と時と矛盾なれば、教、
すなわち地に墮つ

『遍照発揮性霊集』

右記の弘法大師（空海）のお言葉えお現代
訳しますと「時が熟し、相応する人物が現れ
れば、道はひらけて教えはどこまでも広がる。
しかし、人と時が矛盾すれば、教えは廃れ、
地に墮ちる」。となります。

人に限らず、すべての万物の成り立ちを見
てほしいのですが、この世にご縁のない人も
物もすべては、ご縁の「因（原因）」があり、
そのご縁によりて「果（結果）」が伴ってい
ます。しかし、少しでもご縁が繋がらなけ
れば出会いや事象は顕現しません。ご縁と聞

くと「良いご縁」もありますが、中には良い
と思つて出会ったご縁もやがて「悪縁」に
なっていることもしばしばあるものです。

ここでいう弘法大師（空海）のお言葉は、
簡略すると「急がば遠まわれ」とも考察でき
ることです。その対義となるのが「急いては
事を仕損じる。」ということです。いくら努
力しても、なかなか芽が出ない人生に区切り
をつけ、他の事柄に人生の目的意識を転換す
る方々もおられます。ことわざに「石の上に
も三年」という言葉があるように、経験と智
慧（心）を備えていない段階で決断をすると
却つて後悔に変化することもあります。

しかし、ひとつの目標や夢などの目的意識
をもつ「信念（自分を信じぬく気持ち）」が
あれば、機を見て不思議と求めていたものが
手中していることもあるのだと説いています。

「道が開ける鍵は、人との機縁」

人生経験の中には成功ばかりはありません。
人は学び成長する過程にはどちらかというと
失敗の中からのほうが後々自身を支える大き
な力（智慧）になっていることが大半を占め
ています。成功した人たちから話を聞いて
も“成功の秘訣は話しません”「失敗が
あつて、そこからどう立ち上がってきたかの
話しをすることがほとんどです。」

「大器晩成」という言葉があるように、若
いときはいくら頑張つても、努力しても報わ
れないと思う人がほとんどです。しかし一つ
の会社に長年勤めている人は後々、金銭では
絶対買うことのできない「信用・信頼」を得
ることができるものです。また友人関係でも
同じく、友達が多いから幸せになることもあ
りません。それは三六五日しかない一年単位

で考えていくと三六五人の人と会うことは不可能に近く、義理ごと（結婚式など）が重なっていくと出費や時間ばかり取られ、見栄の張り合いに発展したり、気づけばストレスが溜まり、思いもよらない心身疲労に至ることが多々あるものです。

また、同日に複数の友人から食事などに誘われた時にはどちらかの友人を断らなければならぬことも生じます。そこには友人の気持ちちは「いつも忙しいから誘っても断られるかもしれない」など過去の記憶から誘うことをしなくなり、やがて友人であった人が疎遠（そえん）となっていくこともあるものです。

人びとの悩み事はキリがないようにも思えますが根本的に生じた原因の9割方は「人間関係」から金銭や、互いの意図が相容れないことから嫌悪感、嫉妬や妬みなどに発展していきます。

うまくいかない時は、まだ時期が熟していないと思い、焦らず、諦めず、心を落ち着かせてその時を待ちましょう。



令和7年3月20日(木・祝) 東住吉区 高野山真言宗『弘法寺』において

春季「彼岸会」併修「施餓鬼大法要」にて布教師「高野山真言宗 法真寺」住職 指宿法源



上記写真での法話会では、「解釈力」こそ、
 ころを楽に進む話しを中心にしたしました。
 知恵（能）や智慧（心）、権力や名誉があるからといって幸福になれるのでない。大切なのは「その時代・環境に、いかに適応していける力（心の納得になる智慧）が必要である」と伝道してきました。生まれ来る者は必ず死はやがて迎えにきます。その生きる中には無数の過去への執着や、高齢になるにつれ認知や思うように身体が動かない。また人付き合いなども疎遠となりつつ、楽しみが少なくなっているように思う方が多いものです。

人生「これでよかったんだ」と常に自分を納得させていく勇気が必要であることを伝え、それは「過去は過ぎ去った今、今からが人生の始まりと思うこと」。過去の苦い思いを心に背負っている人は「執着から、思い出へ変えること」で心を軽くさせます。過去の苦い経験に捉（とら）われるのではなく、過去の話しを笑いにできたとき執着から解放されています。